



森とおる NEWS

住所 南大塚 2-6-12
電話 03(6912)0135

沖縄辺野古の新基地 NO!

～ 翁長雄志前知事の死去から1年で考える日米問題 ～



土砂を投入する前の辺野古の沿岸

翁長雄志前沖縄県知事（享年67歳）が死去して8月8日で1年になりました。名護市辺野古の米軍新基地建設に伴う埋め立て承認の撤回で一時的に工事は止まるものの、安倍政権は工事を強行し、今なお、県が国を提訴する異常事態が続いています。

「美ら海」から消えたジユゴン

今年3月、沖縄県今帰仁（なきじん）村の漁港にジユゴンの死骸が漂着しました。日本で存在が確認されていた3頭のうちの雌1頭でした。安倍政権が2014年8月に辺野古で海底ボーリング調査を開始後、子のジユゴンは行方不明となりました。そして昨年12月、辺野古沿岸部に土砂投入開始後、雄1頭についても、生きている証となる海藻の食べ跡は、それ以来、確認されていません。これらに防衛省は工事との因果関係を否定しています。

国が軟弱地盤を隠へい

工事の行き詰まりが明るみに

安倍政権は、沖縄の民意を無視して、浅瀬部分に土砂を投入し埋め立て工事を強行しています。ところが埋め立て予定区域の北側にある大浦湾に深さ70㍎から90㍎のところに軟弱地盤が存在することが明らかとなり工事が難航に直面しています。このことは沖縄県民の粘り強い調査で事実が公になりました。国は軟弱地盤の改良工事に7万本以上の砂杭を打ち込むという計画を進めますが、日本には90㍎の作業可能

安倍暴走政治のもと

9条改憲と日米地位協定

日本全体の7割を占める米軍基地が集中する沖縄では、米軍による墜落事故や事件などの基地被害がこれまで以上に増加しています。2014年には県民の激しい抗議をよそに、オスプレイが住宅地に近接している普天間基地に強行配備され、16年に住宅地に近い海岸に墜落しました。17年には牧場にヘリコプターが墜落炎上し、2か月後には普天間第二小学校にヘリの窓枠が落下し、その1週間後にはヘリ

が共感の意を表明したので、日米地位協定は日米安保条約の根幹をなすもので、これに国民の怒りによって異議が唱えられたのは日本と韓国だけです。ところが安倍首相は、こうした世界の流れに逆行しながら、憲法9条を改憲し自衛隊を明記するつもりですが、これは9条の戦力不保持に相入るものではありません。2015年に強行成立した安保法制のもとで戦争放棄の理念をも破壊するものです。すでに自衛隊は米軍と合同訓練を行うなど日本版海兵隊を佐世保市相浦基地に配備しており、これを沖縄にも配備する計画です。米軍と共に他国への侵攻作戦を実行する部隊なのです。

沖縄県民と連帯した

全国一体のたたかいを

沖縄県民の不屈のたたかいは、昨年9月の知事選挙で玉城デニー知事が誕生し、今年2月の「辺野古埋め立てを問う県民投票」、そして4月の衆院三区補欠選挙、いずれも新基地ノーの審判が下されました。それでも安倍政権は、沖縄の民意を踏みにじり、県に提出した埋め立て申請書に基づかない無法な工事を強行しています。しかも世